

2007 年梅子杯総括コメント

2007 年 11 月 23 日
ナカオシュンスケ

1. はじめに

私が皆さんに書いた個別コメントはもうお手元に届いていると思います。「なんて厳しいコメントなんだ。ひどい奴だ」と憤慨している人も多いと思います。ですが、皆さんを恨んで書いたものではありません。誰にでもできる適当なお世辞を少しだけ述べて終わらせるのに比べて、厳しいコメントを書くことの方が何倍もパワーがいるのだということをどうかご理解下さい。

私は、「これは申し訳ないけれどもどうやったらもっと良くなるか見当もつかない」という Speech には数行のコメントしか書くことができません。逆に「見所はあるけれども、こういう点に関して深く考察することができていない。もったいない」と思われる Speech にはコメントをたくさん書きます。そういうた Speech には潜在的にもっと良くなると思われる素地があるからです。ですから、コメントが A4 一枚近くに渡り、「ここまで言わなくていいじゃないか」と思った皆さんこそどうか恨まないでください。そういう Speech にこそ優勝する可能性がふんだんにあると思っているのです。

2. Originality が無ければ聞かせる価値が無い

今回、梅子杯のコメントを書いていて、「頻繁に見聞きする内容なのでオリジナリティがありません」というコメントを、例年よりも多くの Speech に付さざるを得なかつたことは大変残念です。このようなコメントを書くと、「自分の意見が否定された。正しいことを言っているのにどうして評価してもらえないのだろう」という反発を覚える応募者も多いことでしょう。ですが、再度心にしっかりと刻んでもらいたいことがあります。それは、Speech 大会では、いくらその人が述べている意見が正しくても、オリジナリティがなければその Speech は評価に値しないということです。例えば、「お年寄りに親切にしよう」という基本的に正しいことを言っていても、そこに Originality が無ければ、聴衆には居眠りされて終わりです。そのような誰でも知っている単純な事実は、怒っている当の本人が一番良くわかっているのではないでしょうか。

それでは、どのようにしたら Originality に富んだ Speech を作ることができるのか、少し考えてみたいと思います。

池田杯のときのコメントでは、

どのような行動を取るべきか、
そして聴衆にとって誠実な Speech をどのように作るのか、
結果としてそうした活動を続けてはじめて Originality が生まれる、
ということを中心に述べましたが、今回はよりテクニカルにどのような内容構成の視点を持つて Originality を生み出すことができるかを考えたいと思います。

(参考) 池田杯コメント : <http://drunkonspeech.hp.infoseek.co.jp/index6f.htm>)

一般的な意見としっかり比較する

Originality があるということの意味は、簡単に言ってしまえば、「一般的に考えられていることよりも、自分が提案していることのほうが優れている」というふうに考えることができます。そうであれば、まず、自分が提案しようとしていることと一般的なものの差異はどこにあるかをしっかりと考えなくてはなりません。

それには、以下のような至極簡単なチャートを紙に書いてみて、それを完成させていくことから作業を始めなくてはなりません。

一般的な意見	自分の意見	自分の意見が優れている点
・	・	・ ・

非常に単純で馬鹿馬鹿しいチャートに見えるかもしれません、いざ自分の Speech で提案しようとしている内容をこのチャートにまとめてみようすると、それがとても困難であることに気づくでしょう。

それは、ほとんど全ての Speaker は、自分の提案している内容は「絶対的に優れている」ということを Speech で論じることだけしかしておらず、それが「相対的に一般的な意見よりもどのような点で優れている」ということを論述していないからです。

なぜそのようなことが起こるのでしょうか。それは、「それがいい」とだけ言い切ることは

小学生でもできても、「比べてみるとどこがいい」と考えることは大変頭を使う作業だからだと思います。要するにほとんどの現役生は、自分は真剣に Speech 活動に力を入れていると上辺では述べても、一番骨の折れる「比較して考える」ということをほとんど行っていないのです。

このままではイメージが湧かないと思いますので、一つ具体例を提示しましょう。

津田塾大学の元 Speech チーフで、福澤杯や池田杯で優勝した北村瑠理さんの ” A Class for Our Future ” という Speech が好例です。この Speech では「 Career Education という職業紹介の授業を高校に取り入れることによって、自分の適職が何であるかを学生時代から探すチャンスを与えよう」ということをテーマにしています。

そして、この Speech では Career Education というものが、一般的に行われている職業紹介の媒体よりもどういう点で優れているかがしっかりと考察されています。例えば以下のとおりです。（これはごく一部の内容です。他にももっと色々あります。）

一般的な意見	自分の意見	自分の意見が優れている点
<ul style="list-style-type: none">本や TV の情報から適職を探し出すことができる。	<ul style="list-style-type: none">Career Education では、本や TV の情報からは決して得られない適職探しのチャンスを得ることができる。	<ul style="list-style-type: none">Career Education では、興味を持った職種の仕事のアルバイトの口を講師の先生が紹介してくれる。実際にアルバイト活動をする過程で困難に直面した際は、その先生に相談してフォローアップのアドバイスを受けることができる。そのため、苦労をしても挫折する可能性が少なくなるため、ますますその職業に対する興味を深めることができる。

私見ですが、単に「 Career Education で様々な分野の社会人が授業に来て、学生に対して

その職業の魅力を語ってくれれば、学生の職業に対する興味が湧き、適性に合った職業選択を行うことができるようになる」という「自分の提案の絶対的な素晴らしい」を語つただけでは、優勝は無かったのではないかと思います。

というのも、多くの学生が「絶対的に素晴らしい」と思っている内容のほとんどすべては、社会人のジャッジからしてみたら「別に新鮮味は何も無い内容」だったり、「単にネットや本からぱくってきただけの内容」であったりすることが多いからです。そうではなくて、「一般的によく言われていることと比較して何が優れているのか」ということを必死で考えることによってはじめて、ジャッジでも気が付かなかつた新たな視点を Speech に込めることができ、「なるほど、『具体的に』こういう点が優れているのか」と唸らせることができるのです。これこそが Originality なのです。

「はじめの一歩」　　「危機の回避」　　「行動の継続」という視点

「何か新しい行動を起こして、それを継続することによって幸福になる」というステップは、ほとんど全ての Speech にあてはめることができるシンプルなストラクチャーだと思います。しかし、シンプルだからといって、このステップの各点について深く考察している Speech にはほとんど出会ったことがありません。

多くの Speaker は、自分が提唱していることは、誰でも抵抗無くスタートすることができて、いざスタートした後はゴールまで危機は何も無くて、誰もが途中で挫折することなく継続することができる、と暗黙のうちに思っているのです。

いや、言い間違えました。実のところ、多くの Speaker は、自分が他人に提案しているにもかかわらず、そのことを実践したこともなければ、これから実践する気もないのです。そういう無責任な Speaker が巷にあふれているから、どうすれば自分のゴールにたどり着くことができるのかという点に関して、上記のような 3 つのステップを真剣に検証して、その内容を Speech に込めることが必要性に気づくことすらできていないのです。実際に行動して検証していったら、3 つのステップがいかに重要かという事に必ず気付いているはずです。ですから、逆に言えば、この点を追求すれば、Originality のある Speech を作ることができます。

具体例を挙げると枚挙に暇がありません。個人攻撃にならないように敢えてある程度抽象化して話します。こういった Speech は年間 5 本は必ずお目にかかるので、自分以外にもそういう人がいるのだということを認識してください。

例 . 「うつ病になっている人に声をかけてあげよう」

普通の人は、うつ病になって外界との世界を遮断したり、おかしな行動をとっている人に声をかけるのをためらうでしょう。まずその難関を突破しなくてはならないのですが、多くの Speech ではそうした難関には触れられず、「とにかく声をかけてあげて」ということだけが述べられています。それゆえに、「そんなに簡単に声なんてかけられないよ」という極めて一般的な感想を聴衆が持った瞬間に、もうその Speech は終わりなのです。

本当にその Speaker がうつ病の人に声をかけていたのであれば、

- 1 . どのようなタイミングで声をかけるとよいのか、
- 2 . 最初はどのような内容の話から始めればよいのか、
- 3 . 冷たい反応が返ってきたり、逆切れされたらどう対処したらよいのか、

などが検証されて然りなのですが、そこまで深く考察された Speech にはほとんどお目にかかったことがありません。

次に ですが、ただですら精神に疾患を抱えてしまった人を相手にするのですから、自分が良かれと思ってしたことで逆に相手が傷ついてしまったり、何気ない一言が相手を突然激情に駆らせてしまうことなども容易に想定できるはずです。また、そのような時はどのように対処したらよいのか、どこから先は素人の聴衆ではなくて専門家に任せたほうがよいのかなどを考察しなくてはなりません。しかし、そのような内容が込められているような Speech にもほとんど出会ったことがありません。

最後に ですが、うつ病の人を回復させるのは大変な時間と手間がかかることがあると思います。回復にもっていく過程でお互い挫折してしまうような困難な状況に遭遇することも少なくないでしょう。そんな時、いかに途中で挫折しないで、最後のゴールまでたどり着くことができるのかを真剣に考えて Speech に込めなくてはなりません。口で言うのはたやすくても、実際に最後まで意志を貫徹することは大変に難しいことです。

こうした視点に対して具体例を持って Speech を作ることができるのは、自分が提案していることを実際に自分で実行している人に他なりません。みんなと仲良くお遊びキャンプや、生温い日頃の活動に出ることしかできない人には、決して深みのある Speech を作ることはできないでしょう。学生時代は長いようで非常に短い時間です。短い時間の中でいかに密度の濃い活動を行うべきか、そして自分が本当に自信を持てるような Speech を作り上げるには何をするべきか、今一度真剣に考えることが必要だと思います。

3. 最後に

絶対の自信を持って提出した原稿に対して「やり直せ」と言われると、ふて腐れて何も動かなくなる人がいます。しかし、断言しましょう。そのような人は絶対に優勝することができません。イヴ・サンローランは自分の作品に対して、多いときは20回も縫い直しを行ったといいます。天才は19回目でまだ縫い直す目を持っているのです。やり直しをしない人はプロにはなれないのです。

しかし、多くの現役生はやり直すことができません。それは彼らに根気が無いのも一因ですが、もっとも大きな理由は、彼らはそもそもやり直すところを見つけることができないのです。それは、自分も、周りの仲間も、年の近いジャッジも、みんなすべてそのSpeechの内容に対して知ったかぶりになっていて、「なぜそう思うのか」「なぜこのSpeechは信用できないのか」と問うていく姿勢が無いからです。だから僕は敢えて「やり直せ」ということをストレートに伝えることにしています。

「Originality とは何か」「自分が Speech の中で目指すゴールに現状を近づけるにはどうしたらよいのか」と自問自答して探求していけば、薄っぺらで表面的な意見のつぎはぎだけの Speech を提出することはありえません。

今年は、ここ数年の中でも危機感を持たざるを得なかったような内容のものが多くあったため、コメントはどれもきつめのものになったと思います。私の傲慢なコメントを読んでむかついた人も多いはずです。ですが、すばり言わせてもらえば、「このままでは優勝できない」と内心思っているのは、実は反発している当のあなたなのではないでしょうか。

私は大会で優勝することを常に目指せと言います。ですから、「負けた人 = 最低」という意見の持ち主なのではないかと誤解されることがあります。ですが、実際はそうではありません。私の中で最低なのは負けた人ではありません。最低なのは、勝負が始まる前から負けることにうすうす気付いているにもかかわらず、様々な予防線を張り、勝負に挑もうと言う意識の無い人たちです。

最初から勝つ気の無い人間が優勝できるはずはありません。せっかくここまで来たのだから、もう少し素直さをもって、優勝するにはどうしたらよいかもう一度考えてみるべきです。

梅子杯の本番まではまだまだ時間があります。まだいつでも挽回が効く状態です。実はやり直しからがプロの仕事のはじまりなのです。それには泥臭いこともこなさなくてはなら

ないでしょう。ですが、泥臭いことをこなして初めて自分の Speech に自信を持つことができます。地道に調査を重ね、Speech を改良し続ければ、「頑張ってよかった」という結果が必ず返ってくると思います。ですから、最後まであきらめずに、聴衆を納得させられるような Speech を作り続けていただければと思います。

応援しています。壇上で Speech を終えるまで全力で走り続けてください。

長々とありがとうございました。

Speakers are not braver than anyone else.

They are just braver seven minutes longer on the stage.

ナカオ・シュンスケ